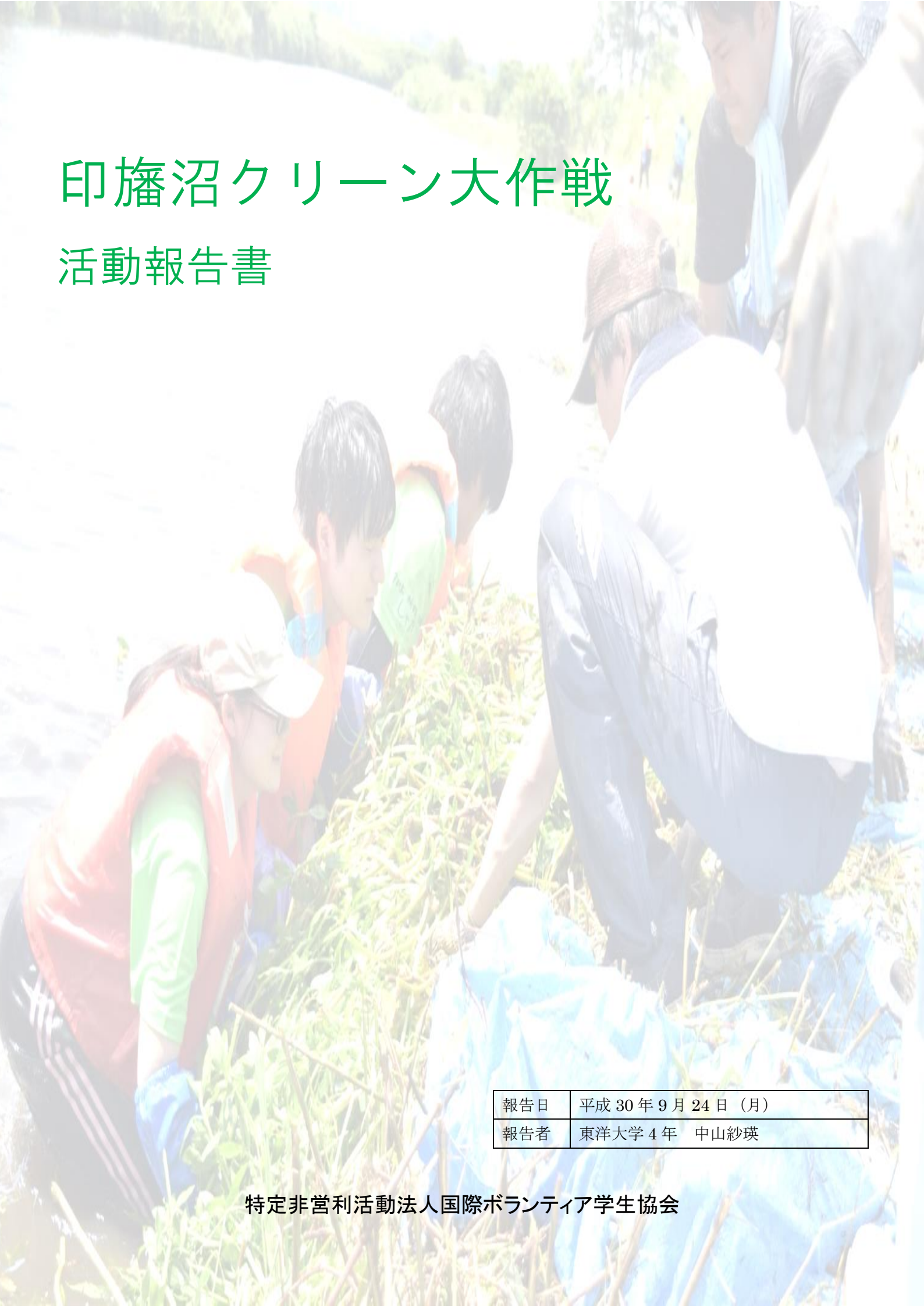


印旛沼クリーン大作戦

活動報告書

A background photograph showing several volunteers engaged in a cleanup activity at Inaba Zoum. They are wearing safety vests and hats, and are focused on pulling weeds from a blue tarp. The scene is outdoors with trees and a body of water in the background.

報告日	平成 30 年 9 月 24 日 (月)
報告者	東洋大学 4 年 中山紗瑛

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会

活動概要

背景

印旛沼は千葉県北西部に位置し、その流域は13の市町村に跨がる利根川水系の湖沼です。周辺の農業用水、京葉工業地域への工業用水、千葉市、習志野市、船橋市等の飲料用水として供給されているほか、内水面漁業もおこなわれ、コイやフナなどが漁獲されています。

しかし観賞用に持ち込まれた可能性のあるナガエツルノゲイトウ（外来植物）が水路、河川、湿地等、印旛沼流域にて大幅に繁茂してしまっています。大雨の際、ナガエツルノゲイトウの群落が流失してしまい、それらが排水機場に漂着し、排水作業に支障をきたすばかりでなく、洪水の被害を引き起こす可能性があるなど地域の安心、安全に影響を及ぼしています。そこで地域の安心、安全、観光資源、漁業資源および生物多様性の確保の観点から、沼水環境の健全化を図ることが重要視されています。「そんな印旛沼を変えたい。」「印旛沼を地元の方々にとっての身近な沼にしたい。」といった思いから、2016年、神崎川での大規模除去活動を開始しました。

今年3年目を迎える活動として、当協会学生だけではなく、周辺大学など、より地域を巻き込んだ運動へと発展させ、治水リスクの軽減と印旛沼流域の水循環健全化に寄与していきます。



目的

印旛沼流域に大量繁殖する、外来水生植物・ナガエツルノゲイトウを除去し、大和田排水機場の治水リスク、漁業農業などへ及ぼす悪影響、水質汚濁の軽減を図ると共に、印旛沼流域の水循環健全化に寄与する。そして今年も「地元の方々にとって身近な沼にする」ことを目指し活動する。

概要

■ 主催

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会

■ 共催

印旛沼流域水循環健全化会議

■ 活動日程

2018年8月9日～8月11日（3日間）

■ 活動場所

千葉県八千代市、印西市 神崎川上流

■ 活動内容

- ・特定外来水生植物ナガエツルノゲイトウの除去活動
- ・交流会
- ・意見交換会

■ 参加人数

1日目 89名（IVUSA学生87名、事務局1名、卒業生1名）

2日目 161名（IVUSA学生87名、事務局1名、卒業生1名、地元関係者39名、一般参加者33名）

3日目 115名（IVUSA学生86名、事務局1名、卒業生6名、地元関係者22名）

3日間合計 延べ365名

■ 総作業（ボランティア）時間

3日間合計 計1,357時間

■ 参加者所属大学（敬称略、順不同）

東洋大学、日本大学、法政大学、中央大学、神奈川大学、学習院大学、国土舘大学、大妻女子大学、拓殖大学、東京家政大学、東京家政学院大学、東京有明医療大学、東京電機大学、群馬大学、群馬県立女子大学、群馬県立県民健康科学大学、高崎経済大学、立命舘大学、同志社大学、関西大学、龍谷大学

計21大学

■ 協力（敬称略・順不同）

印旛沼流域水循環健全化会議
千葉県県土整備部 河川環境課
千葉県環境生活部 水質保全課
千葉県県土整備部 印旛土木事務所
印西市環境経済部 環境保全課
印西市都市建設部 土木管理課
八千代市安全環境部 環境保全課
独立行政法人水資源機構 千葉用水総合管理所
パシフィックコンサルタンツ株式会社
千葉県水道局 工業用水部施設設備課
環境パートナーシップちば
鹿島川土地改良区
東邦大学 長谷川雅美教授
千葉大学 近藤昭彦教授
八千代エンジニアリング株式会社
シノブフーズ株式会社 千葉工場
株式会社電業社機器製作所
株式会社荏原電産 営業部
千葉県立佐倉高校

■ 寄付・協賛（敬称略・順不同）

企業名：株式会社シバタ
協賛品：ブルーシート 100 枚（1 枚約 3.6m×約 5.4m）
活用場面：ナガエツルノゲイトウの駆除作業

企業名：萩原工業株式会社
協賛品：ブルーシート 200 枚（1 枚 3.6m×2.7m）
活動場面：ナガエツルノゲイトウの除去作業

企業名：モンスターエナジージャパン合同会社
協賛品：モンスターエナジー96 本
活動場面：活動中の栄養補給として

企業名：株式会社友安製作所
協賛品：防風ネット（1.5m×50m）
活動場面：ナガエツルノゲイトウの運搬作業

企業名：弘進ゴム株式会社
協賛品：弘進グローブ 680 30 双／マイ軽快胴付長靴 5 足
活動場面：ナガエツルノゲイトウの除去作業

企業名：株式会社オーシャンライフ
協賛品：ライフジャケット 20 着
活動場面：水中でのナガエツルノゲイトウの除去作業

企業名：株式会社ハヤブサ
協賛品：タオル 200 枚
活動場面：活動中や休憩中に汗や汚れを拭く

企業名：ちば東葛農業協同組合
協賛品：米 15kg×2
活動場面：活動での食事

掲載情報：Facebook ページ/NPO 法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）
Facebook ページ/印旛沼クリーン大作戦
使用風景につきましては、Facebook ページにて掲載させていただきました。
ご協力いただき誠にありがとうございました。

活動内容

翌日の作業に向けてワクワクを高めました。

台風 13 号の接近が予報されていた初日は、安全のため除去作業は中止となりました。隊員はみな台風が去った午後 18 時に集合し、その後結団式を開催しました。

およそ 2 時間の結団式で隊員同士はより絆を深めることができ、翌日から行われる除去作業のイメージを膨らませることができました。3 日間で予定していた作業を 2 日間で行うことになるため、とてもハードな作業が予想されましたが、隊員はさらに「やってやるぞ!」という気持ちが増し、意気込んでいました。



力を合わせ、心を一つに



前日とは打って変わって空は青く晴れ渡り、作業日和となりました。早朝に行われた開会式には地元関係者の方々も集まり、共にナガエツルノゲイトウの完全除去を目指して一致団結し、気持ちを高めました。その後3つの現場に分かれ、水中でナガエツルノゲイトウを根から引き抜き陸に引き上げる部隊、陸から引き上げをおこなう部隊、そしてそれを運搬車まで運ぶ部隊に分かれ作業を行います。驚異的な繁殖力をもつナガエツルノゲイトウは小さな断片からでも芽を出し発根するため、陸に張ったブルーシートから落とさないように慎重に行います。

午後からは一般参加の方々33名も一緒になって、ときには泥だらけになりながら汗水たらして作業をおこないました。水を多く含んだナガエツルノゲイトウはとても重いため、「せーの！」の掛け声とともにみんなで力を合わせ、除去作業を続けました。

また、夜には交流会としてバーベキューを開催しました。たくさんの地元関係者の方々や農家さんが集まってくださり、学生たちは積極的に交流していました。作業中にはなかなか話せなかったことも、この場ではたくさんお話しすることができ、作業とはまた違う時間を楽しんでいる様子でした。周辺の農家さんが私たちの活動に足を運んでくださることは今回が初めてだったため、これはとても大きく嬉しい成果です。

バーベキュー終了後は宿舎へ帰り翌日の作業最終日に向けてミーティングを行い、作業やバーベキューを通して深めた絆を最終日に発揮できるよう改めて気持ちを高めました。



ナガエツルノゲイトウを陸に引き上げる様子



交流会（バーベキュー）の様子

最終日、完全除去に向けて



ナガエツルノゲイトウを運搬する様子

3年間続けてきた活動の集大成となるこの最終日は、活動範囲のナガエツルノゲイトウ完全除去に向けて全力を尽くしました。学生と地元関係者の方々とでコミュニケーションを取りながら小さな断片も落とさないように除去し、運搬車へ運びます。前日の経験を踏まえた作業で丁寧に効率よく進み、最終的には当初予定していなかった活動範囲外にあるナガエツルノゲイトウの大群落まで除去することができ、目標の完全除去を達成しました。すべての作業を終えた学生はみな達成感に満ち溢れた表情をしており、中には感動で涙を流す人もいました。

“共に”印旛沼の未来を見据えて

すべての作業が終了した後、地元関係者の方々と共に、意見交換会を行いました。これまでの活動を振り返って感じた意見や感想、そして今後の印旛沼には何が必要であり、私たちには何ができるかなど話し合いました。私たち学生だけでなく地元の方々自らが地元の課題に積極的に取り組んでいくことが、印旛沼がより身近な存在になるための大きな一歩だと思っています。それぞれの立場から様々な想いを伝えあうことで、共に印旛沼の未来を見据える大切な時間となりました。



活動成果

ナガエツルノゲイトウの除去量

約 10.9 トン

予定の範囲（佐山橋～佐山第二橋区間）のナガエツルノゲイトウを完全除去することができ、また予定の範囲よりも下流に繁殖するナガエツルノゲイトウの群落も除去することができました。

2日間の活動で、作業に関わった人数はのべ270人を超え、まさに力と心が一つになった成果となりました。



メディア掲載

名称	掲載日/放送日時	掲載面/番組名
読売新聞	2018年8月15日（水）朝刊	地域版
千葉日報	2018年8月27日（月）	－

新聞社より、私たちの活動の様子を取り上げていただきました。私たちの活動がより多くの方々のもとへ届き、この問題を自分事としてとらえ自らがアクションを起こしていこうと思うきっかけになったら、と思っています。

特定外来植物



ガエツルグ・ドゥの難題、計画上に上った。神祕川線除作戦は今年5月3日、一般追加を爲すので、新たな人の参加が必要だ、と、取り組むの

ナガエツルノゲイトウを駆除する大学生ら（印西市で）

divusa 国際ボランティア学生協会
 熱意は人を動かし、社会を動かす

環境保護

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会

災害救援、国際協力、環境保護、地域活性化、子どもの教育支援の5分野を柱とし、カンボジアでの小学校建設活動、多摩川清掃、中国黄土高原緑化活動など、多岐に渡って活動を展開。2002年5月に、特定非営利活動法人の認証を受け、2006年には、過去50回に及ぶ災害救援活動と、日々の会員の危機管理講習や災害想定訓練が評価され内閣総理大臣表彰を頂きました。また、国内外あわせて、今までに3,070（2017年度末）の事業を実施。現在では首都圏・近畿地方を中心に、約95大学、約4,100人の学生会員が所属しています。

<本部>

住所 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 1-34-4 ザ・アゼリアハウス B-102

TEL/FAX 03-6751-2683 E-mail ivusa-office@ivusa.com URL <http://www.ivusa.com>

<関西事務所>

住所 〒569-1121 大阪府高槻市真上町 1-1-18 Insist21 - 3B

TEL/FAX 072-601-5109 E-mail ivusa-office@ivusa.com